

平成27年度病害虫発生予察注意報 第2号

平成27年7月8日

大分県農林水産研究指導センター

農業研究部

対象作物：普通期水稻

対象病害虫：いもち病（葉いもち）

1 対象地域 県内全域

2 発生量 多い

3 発表の根拠

- (1) 農業研究部水田農業グループ（宇佐市）が実施している普通期水稻「ヒノヒカリ」の生育概要は7月6日現在、草丈は平年よりやや高く（平年比：103）、茎数は平年よりやや少なく（平年比：97）、葉色はやや濃い（平年比：106）。期間を通じて寡照で推移したことから、つや姫を除いたいずれの品種においても徒長傾向にあり、日照不足のため罹病しやすい生育となっている。
- (2) 7月2日福岡管区气象台発表の1か月予報によると、降水量は多い～平年並の確率が80%、日照時間は平年並～少ない確率が80%と、多雨、寡日照で推移すると予想されている。本病は冷涼、寡日照条件が発病に好適であり、前述の徒長傾向と併せて発生を助長する可能性がある。
- (3) 普及指導員の情報によると、一部地域で例年より葉いもちの発生が多くなっている。
- (4) イネ葉いもち発生予測モデル（BLASTAM）によると、本年は7月2日～7月6日にかけて感染好適条件が出現している（表1）。

表1 BLASTAMによる感染好適条件の出現状況（7/1～7/7）

月/日	院内	日田	玖珠	竹田	佐伯	宇目
7/2	—	—	—	—	●	●
7/3	—	—	—	—	●	●
7/4	—	—	—	—	●	●
7/5	●	●	●	●	●	●
7/6	—	—	—	●	●	●

注）感染好適条件出現の約一週間に初発病斑が認められ、約二週間後に病斑が目立ってくる。

判定指標の解説

- 好適条件： 湿潤時間中の平均気温が15℃～25℃であり、湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間を満たし、当日を含めてその日以前5日間の日平均気温の平均値が20℃～25℃の範囲にある

4 防除上注意すべき事項

- (1) 葉いもちの発生が多い場合は、直ちに防除を行い、穂肥を控えめに施用する。
- (2) 苗箱施薬を行っていない圃場では、粒剤による葉いもちの予防に努める。
- (3) 「あきまさり」など本病に弱い品種の作付けが行われている地域では、特に注意が必要である。
- (4) QoI剤（オリサストロビン、メトミノストロビン、アズキシストロビン）については、耐性菌が確認されているので、使用を控える。
- (5) 穂肥の過剰投与は、本病の発病を助長させるため、注意が必要である。
- (6) 防除薬剤は、大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照し、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）に注意する。（ホームページアドレス <http://www.jppn.ne.jp/oita/>）